

教室関係

§ 昭和47年度の地理学科開講科目（学部）

- 地理学概論 4前 松井 3年間に学習した地理学的知識のまとめ。
- 地理学概説 1 木内 地理学とは何か、その課題と方法を実証的研究を例として。
- 日本地誌Ⅱ 3前 内藤 東北日本の地誌。
- 経済地理学Ⅰ 3前 正井 経済地理学本質論および農業地理学一般論。
- 経済地理学Ⅰ 3後 内藤 日本の農業と農業地域の変貌をめぐる諸問題。
- 経済地理学Ⅱ 3前 内藤 世界と日本における工業地域の生成・発展の過程。
- 都市地理学 3後 正井 都市生活環境に関する諸問題を中心とする都市問題。
- 集落地理学 2・3前 正井 集落（特に村落）の発達・形態・機能・景観。
- 地理学特講Ⅰ 3前 松井 那須野盆地地誌。
- 地理学特講Ⅲ 3・4前 尾原 戦後のわが国の資源確保→工業立地→地域開発という経過の背景となった地質条件について。
- 気候学Ⅰ 1 浅井 気候学の理論と気候誌。
- 気候学Ⅱ 3 鈴木 日本および世界各地の気候の発現のメカニズムについて。
- 外国地誌Ⅰ 2 浅井 ヨーロッパの自然・歴史・社会・文化の系統的考察。
- 外国地誌Ⅲ 3・4 松井 ソ連地誌。
- 地質学 1・2 浅海 自然地理学分野の基礎としての鉱物・岩石・地層・地史。
- 土壌地理学 2・3前 浅海 土壌の生成・分類・分布に関する地理学的考察。
- 地図学講義演習2 門村 地図学の性格・意義、地図作成法・投影法、地形図を利用する判読・計測・作図の講義と演習。
- 歴史地理学 3・4 別技 歴史地理学の意義、その具体的研究例を日本および世界の各地域に求めて解説。
- 交通地理学 3・4後 有末 交通の地理的な見方、本質と機能、交通地理学の発展と体系、交通問題等について。

- ・陸水海洋学 2・3 前浅井 海洋・湖沼・河川・地下水の理論と地誌。
- ・地理学演習Ⅰ 3 松井・正井 外国文献の輪読。
- ・地理学演習Ⅱ 3 浅井・浅海 自然地理学とくに地形・土壤に関する内外の文献の講読。
- ・地理学演習Ⅲ 3 浅井・内藤 内外文献によるアジア地誌のまとめと発表，および地誌に関する外国文献の紹介。
- ・地理学演習Ⅳ 4 全員 卒業論文作成に関する指導と中間発表。

(一般教育・教職課程)

- ・地理学 1 前 正井 自然環境と人間生活に関する講義。主として世界の主要文化圏の実状について。
- ・地理学 1 後 朝倉
- ・地学(地質・鉱物) 1 前 浅海 地球科学の分野における最近のトピカルテーマの紹介と解説。
- ・教科教育法(地理) 3 前 大和田 社会科教育の歴史と問題点について，とくに地理教育を通じての実際と問題点，地図の話。

§ 地理学巡検

松井先生	10月	那須野盆地	3年
浅井先生	7月	高尾山周辺	1年
浅海先生	10月	木曾谷・富山	2年
正井先生	3月	会津・只見	2年
内藤先生	4月	米沢盆地	3年

§ 卒業論文

本年度の卒業論文題目は下記の通りである。

五十嵐フチ子	奥只見電源開発と地域の変容
宇賀敏江	下関市に於ける沿岸漁業の地理学的考察
栗田逸子	佐伯市の水産地理学的考察
島田文子	相模野中南部の地理学的考察
鈴木君代	成城町と多摩プラザ地区の比較研究
千秋俊枝	河北潟周辺における農業

武井淑江	東京の都市公園の地理学的研究
寺木江理子	釧路市における産業の発達と地域的条件 ― 紙・パルプ工業を中心として ―
西谷陽子	秩父市の産業構造とその変化
花島正子	松戸市の都市化
松下恭子	鹿児島市の都市地理学的考察
山本恵子	筑波研究学園都市付近の地域構造
吉田晶子	目黒区南部一帯の住宅環境の研究
渡辺勝江	埼玉県東部、特に葛蒲町付近の地理学的考察
表朝子	アメリカの都市分布

§ 大学院

47年3月に、石渡千珠さん、本沢みどりさんが修士の称号を受けた。(修論要旨は前出)47年度の入学生は、本学出身の渡辺むつみさん、早稲田大学出身の小山須美子さんの2名である。

開講科目は下記の通り。

- ・地誌学特論Ⅲ 木内 東京のコロロジー。東京の都市問題の中に地誌学の方法を発見する。
- ・地誌学特論Ⅳ 岸本 人口地理学研究法。
- ・地誌学特論Ⅴ 小山
- ・地誌学演習Ⅱ 浅井 気候誌の方法論、記述方法などについての外国文献による演習。
- ・人文地理学特論Ⅱ 松井 人文地理学の基礎的概念。
- ・人文地理学特論Ⅲ 松井 地域論
- ・人文地理学特論Ⅳ 正井 都市の環境と景観に関して、日本と外国の都市の比較研究。
- ・人文地理学特論Ⅴ 別技 文化地理学。特に民族文化および宗教を中心として。
- ・人文地理学演習Ⅱ 正井 東京を中心とする都市化とレクリエーション地域の諸問題。
- ・人文地理学野外調査正井 都市の環境と景観(都市的土地利用を含む)に関する実地調査。
- ・自然地理学特論Ⅱ 浅井 高緯度地方の植物、農業生態学、アイスランド農業の諸問題について。
- ・自然地理学特論Ⅴ 鈴木 古気候学。氷河時代の気候像の復原。
- ・自然地理学演習Ⅱ 浅海 地形と土壌の対応の問題に関する内外の文献の講読。
- ・自然地理学野外調査浅海 土壌および表層地質の野外調査に関する方法と実習。

修士論文題目(予定)

星合克代 豊川流域の地形発達史

玉城恵子 沖縄の人文地誌

§ 教官の学内役職

松井先生 図書選定委員

浅井先生 地理学科主任 1年生補導委員・施設計画委員・臨海実験所運営委員・館山施設計画委員・紀要編集委員

浅海先生 4年生補導委員・移転委員長(7月まで)・ラジオアイソトープ実験室運営委員

正井先生 3年生補導委員・一般教育委員長

内藤先生 2年生補導委員・電子計算機室運営委員

§ 教務補佐員の配置

福山恭子 (47年5月まで)(本学昭42卒) 人文地理学講座及び自然地理学講座

金子晶子 (本学昭35卒) 人文地理学講座

太田信行 (日大昭47卒) 自然地理学講座・人文地理学講座・図書整理

二瓶直子 (本学修士昭44卒) 自然地理学講座

鈴木陽子 (本学修士昭43卒) 地誌学講座・人文地理学講座・空中写真整理

§ 地理学教室の移転

既報(前号)のように、文教育学部の独立校舎が47年3月完工し、同年6月に各学科の移転が行なわれた。この新校舎は文教育学部本館と呼ばれることになった。地理学科では、6月8日より教官・職員・学生が一体となって移転準備を開始し、13日に移転、15日に一応整理を終えた。新校舎(8階建)7階のフロアの大部分を占め、各教官研究室(実験室)の他、製図室、演習室、図書室、資料室、学生控室、大学院研究室がある(各室の配置図は前号に掲載)。大学本館(現在は大部分を家政学部が使用)内の旧教室に比べて、天井は低い、室内は明るく、眺望も良い。移転に伴って各室の設備備品も整備された。エレベーターの他、各階にトイレ、給湯施設がある。又、大学本館3階706室と707室が地学準備室として与えられ、鉱物標本・地学関係器材を収納することになり、現在整備中である。

§ 式先生，正井先生の海外出張

式先生は昭和47年3月7日より，文部省在外研究員として1年間の予定で欧米に出張された。3～5月中旬まで西ドイツのミュンヘン大学，5月～7月下旬までスウェーデンのウプサラ大学，7月～10月下旬までカナダのマクギル大学（この間，モントリオールで開催された国際地理学会議に出席），11～3月上旬までアメリカのアリゾナ大学に席をおかれ，主に気候地形学について研究されている。3月6日に帰国の予定。

正井先生は昭和47年7月28日より9月1日まで国際地理学会議に出席の為カナダ，アメリカへ，同16日より28日までユネスコ・国際地理学連合共催の地理教育国際会議に出席の為シンガポールへ，12月25日より昭和48年1月7日まで研修指導のためヨーロッパ各国へそれぞれ出張された。（鈴木記）

学 会 関 係

日本地理学会1972年度春季大会は4月2日から5日にかけて駒沢大学を会場にして行なわれた。4月2日・3日には総会と「学会における研究委員会総括会」，そして4会場に分かれて124の一般研究発表が行なわれた。本学からは浅井辰郎先生と瀬尾由紀さんが連名で，「日本・外国の1930～60年代間におけるカロリー-法土地生産力の上昇量」と題して発表された。4月4日・5日は巡検にあてられ，第1班：鹿島臨海工業地帯，第2班：三浦半島，第3班：多摩ニュータウン・相模原，第4班：東京北郊の4班に分かれて行なわれた。

日本地理学会秋季大会は10月8日～11日に山形大学を会場にして行なわれた。この大会では2つのシンポジウムと45の一般研究発表，そして2つの巡検が行なわれた。シンポジウムのテーマは「河川の地理学とその応用」，「中心地としての地方の都市 — 国土の変貌と地方の中心都市の構造，役割の変化 — 」というもので，活発な討論が展開された。巡検は当初，第1班：蔵王火山周辺，第2班：乱川扇状地，第3班：出羽三山の3つが予定されていたが，第2班が定員に満たなかったために中止となり，第1班と第3班が10月10日・11日の両日にわたって行われた。

本年の日本地理学会の例会で本学関係者の行なった研究発表は以下の通りである。

内藤博夫：米沢市の人口動態と工業労働力（2月例会）

本沢みどり・浅海重夫：下総台地南半部におけるやつだの地形と谷底土壌との関係について

（5月例会）